

**早稲田大学社会科学部**

**周 藤 ゼミ**

**現代社会学**

**研究**

**パンフレット**

**2017**

# 社会学への誘い

「社会学」と聞いてみなさんは何を思い浮かべられるでしょうか。「社会学」の講義を受講したことがない人も、あるいはもしかしたら受講したことがある人でさえ、社会についての学問であること以上にはよくわからない、漠然としたイメージしかもっていない人も多いのではないかと思います。

実は、「社会学とは何か」という質問は、専門に社会学を研究しているはずの社会学者を、苦しめる質問のひとつです。しかしながら、同様な問いは、政治学や経済学など他の社会科学に対して立てられる機会が少ないことと考え合わせるならば、なぜ社会学にかぎって「社会学とは何か」ということが問題になるのでしょうか。「社会学とは何か」という問いの中には、社会学という学問の対象である社会と、そうした社会を対象とする社会学という学問の性質をめぐる秘密が隠されているのです。

「社会学とは何か」という問いが発せられるのは、社会学の対象であるところの「社会」の性質に起因しています。われわれはこんにち「社会」なる語を日常語として使用しますが、そこではなぜ「社会」という概念を用いなければならないのか、「社会」という概念は何を意味しているのか、一度考えてみるといいと思います。「社会」というのは、ときには具体的な組織や集団を表したり、われわれの生活世界そのものを表したりもします。しかし、「社会」という概念が固有にもつ特性としては、そうした具体的な組織や集団、生活世界を超え、われわれ個人の実存を超えた抽象的な存在であったりするところにあるのではないのでしょうか。

こうした抽象概念としての「社会」というものの性質は、「社会」が純粋な「想像の共同態」という性質を伴って存立する〈夢〉のような存在であることを示しています。そして、このことはまた、そうした「社会」というものを捉えることを目的とした社会科学というものがそうした〈夢〉とともにあることを示しています。社会学は、そうした〈夢〉とともにありつつ、「最後の社会科学」としてそうした〈夢〉の中から分化して成立した学問であることにおいて、社会科学において独特の位置を占めることになりました。すなわち、社会学という学問は、〈夢〉としての位置を保持しつつ、この〈夢〉に対して真摯であることを要求される学問です——こうした社会学のもつ性質は、〈夢〉に対して〈覚醒〉した学問として、絶え間ざる反省を促されることによって、社会学することに独特の厳しさをもたらすとともに、社会学が「大人の学問」であると謂われる所以になっています。

このことは社会学の学問的アイデンティティの問題としても語られてきました。たとえば、社会学は、その対象たる社会の性質上、他の科学と重なる領域を扱ったり、他の科学が扱っていない隙間の領域を扱ったりすることが往々にしてあります。このような社会学の性質は、ときに「侵略科学」であるとか「残余科学」であると揶揄されたりもしてきました。それならば、他の学問とは異なった社会学の固有性はどこに存在するのでしょうか。他の科学が扱っていない領域を扱うことも社会学の固有性のひとつですが、同一の対象を扱っても別の見方を提供するというのもそのひとつです。社会学が「常識破壊ゲーム」と言われるように、常識では捉えられなかった領域に焦点を当てたり、常識とは異なる見方を提供したりすることを通して、真理を探究するということを社会学の学問的アイデンティティのひとつとすることは、こうした社会というものの性質と社会学という学問の起源に由来するものです。

しかしながら、「新興」の学問である社会学が、新たな見方を提供する一方で、その影響が広まるにしたがって、他の学問領域も社会学からの影響を受けてきました。すなわち、他の学問領域の社会学化、つまり、社会学が他の領域との間の境界を侵犯するだけでなく、今度は逆に他の学問領域が社会学との間の境界を侵犯するというわけです。それでは、こうした段階を経て、社会学は他の学問領域から侵食を受けて、消失してしまうのでしょうか。

確かに、他の学問領域が、社会学の長所を吸収して、自らのものにしていくということはこれからもあるでしょう。しかしながら、いつの時代も、組み尽くされない残余領域があることは、近年出てきたカルチュラル・スタディーズや、ジェンダー・スタディーズなどといった比較的新しい領域が、社会学と近接していることを考えてもよいでしょう。あるいは、社会学が他の学問領域から侵食を受けてもなお、既存の学問領域に対して、新たな知見を提供していくかもしれません。

こうした、「消失」していく社会学の性質に対して、社会学の中心的な固有性として考えなければならぬのは、その「人間中心主義」としての性格にあると思います。これは、社会学が、人間科学として心理学や教育学や人類学とも近い関係にあったり、人文科学として哲学や歴史学などとも近い関係にあるということを考えてもよいでしょう。そして、このこともまた社会学が「社会」を固有の対象とするところから生まれる性質とかかわっています。すなわち、「社会」という〈夢〉の存在は、その〈夢〉から覚醒するところにおいて、〈私〉の経験をかかわってくるのです。

こうした社会学のもつ性質は、社会学に独特の厳しさをもたらします。ときに社会学は、「社会学する意志」をもつものを拒み、「社会学する意志」によって達成されるものではなく、結果として達成することができるかもしれない（しかしそのような保証はどこにもない）、〈夢のまた夢〉の学問であると感じられることもあるもあると思います。

しかし、社会学は決して難しいものではなく、おもしろいものです。社会学が切り拓く新たな知見、新たな見方は、常識的なものの見方に対して、人生を豊かにしてくれます。また、社会学でできる研究テーマは、別にゼミ生の研究テーマを挙げているように、現代社会の問題から人間社会の文化・歴史にかかわるものまで多岐にわたり、およそ人間の社会生活にかかわる事物すべてが対象になりうる「なんでもアリ」という社会学の性質が如実に現れる結果となっています。こうしたさまざまなテーマをもった学生がゼミで一同に会して議論ができることも社会学の特徴の一つです。

このような社会学の特徴は、社会学が根源的に学際性（inter-disciplinary）をもった学問であることを如実に合わせています。しかし、注意していただきたいのは、上に述べてきたように社会学はひとつの学問分野（discipline）であることです。残念ながら社会科学部において社会学というディシプリンを学べる機会は、それほど多くはないと思いますが、コア科目「社会学入門」の講義では、現代社会学のエッセンスを紹介していますので、社会学的思考のおもしろさを感じたり、他の学問分野のオルターナティブとしての社会学の可能性に関心をもったりしたならば、ぜひ社会学を勉強してみませんか？ みなさんと一緒に「熱い社会学」を目指したいと思っています。

（担当教員：周藤 真也）

## 担当教員の紹介



周藤 真也（すとう しんや）

早稲田大学社会科学部准教授

1970年島根県生まれ。筑波大学大学院博士課程社会科学部研究科社会学専攻単位取得退学。一橋大学大学院社会学研究科助手などを経て、2004年4月に早稲田大学に着任。専門分野は、社会学（理論社会学、知識社会学、社会学説史）。「社会的なるもの」に対する想像力とその歴史を社会学史や精神医学史を中心に追っている。現象学から現代思想まで関心領域は広い。著書に『よくわかる社会学』（共著）、ミネルヴァ書房、2006年、など。本学部での担当講義は、社会学入門B、社会意識論、社会学原論、現代社会学の方法、社会学の思想と理論、知識社会学、社会調査法2、ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）I・II。

メールアドレス：ssuto@waseda.jp      ホームページ：http://www.f.waseda.jp/ssuto/

研究室：14号館1031室      オフィスアワー：金曜日 14:45～16:15

# 周藤ゼミへの招待

みなさんは社会学についてどれほど知っているでしょうか？ このゼミでは社会学について深く学んでいきます。私達は、普段自分達の生きている社会について何も疑問を抱くことなく生きているかもしれません。しかし、そのような社会に対して疑問を投げかけ、それについて研究していくことで、自分の常識を壊していくゲーム的な要素を含む学問が社会学です。つまり、この学問が対象とする範囲は幅広いものとなります。家族などの身近な人間関係から社会問題まで様々なものが対象となります。このような対象を、調査・研究・記述する時に社会学的な考えを用いて研究していきます。

まだ何も社会学について知らない人でも、このゼミでは初めに土台作りのためのテキスト講読から始まります。そして、そこから分野におけるディスカッションを経て卒業論文に向けての研究へ進んでいきます。また、年に二回あるゼミ合宿や忘年会などでゼミの人々と仲を深めるきっかけとなるでしょうし、一緒に過ごす時間や考えを共有していく時間も多いため、さらに仲良くなることもできます。

最後に、客観的な視点からこの社会に対して疑問を抱くことで自分の知らなかった景色を見ることがこのゼミを通して得られるでしょう。是非、この周藤ゼミと一緒に勉強していきましょう。

(幹事長：和田 悠弥)

## ゼミナールの構成 (各年次のゼミの目標とゼミの内容)

### ゼミナールⅠ (2年生) 水2・4

目標：社会学の基本的な考え方と知識を身につける  
内容：入門的テキストの講読、古典などの基本テキストの講読  
成果：年度末に翌年度の研究計画を提出する。

### ゼミナールⅡ (3年生) 水4・5

目標：社会学の各領域について見識を深める  
内容：各人の研究テーマに即した基本テキストの講読と研究指導  
成果：年度末に研究レポートと卒業論文計画書を提出する。

### ゼミナールⅢ (4年生) 卒論ゼミ

目標：各人のテーマに基づいた研究を完成させる  
内容：各人の研究テーマの探求と研究指導  
成果：年度末に研究論文を提出する。

※2018年度も、水4はゼミナール全体での文献講読や研究発表の時間とし、2年生のテキスト講読は、水2の時間を中心に行います。ゼミナールⅠの正規の時間(水4)以外の活動が必須ですので、時間の確保をお願いします。



## 研究テーマについて

本ゼミでは、各人の研究テーマは、ゼミ全体のテーマとゼミでの指導の下で2年生の終わりに決めることとなります。新2年生については、応募の時点で研究テーマを決めている必要はありませんが、ある程度興味関心領域や方向性などは絞っておいてもらえるとよいと思います。2年生終わりの時点で、だいたいの研究領域、研究テーマや題材を決めて研究計画を作成して提出してもらいますが、その後の研究の進展に応じて、研究テーマを変更することも可能です。いずれにしても、ゼミの場のみでは、社会学の広範な領域と様々な考え方すべて教えることは不可能なので、ある程度ゼミ生の自主的かつ主体的な取り組みが求められます。担当教員と連絡を取りながら積極的に進めてください。

### 【ゼミ生の研究テーマ・関心領域】

観光列車の現在

近江町市場の観光化

アニメ聖地巡礼の現在～『ヤマノススメ』を題材に

クリスマスの意味変容～恋人と過ごす日へ

江ノ電と湘南へのまなざし

脱ウォルト化する TDR

台湾における桜の表象をめぐって

温浴施設における入れ墨へのまなざしの形成性の公共性とポリアモリーの秩序



### 【近年の合宿地】

2014 年度：清里／大洗／筑波山

2015 年度：松代／秩父／伊東・下田

2016 年度：軽井沢／高山／台湾／鴨川

2017 年度：北海道／軽井沢・小諸



### 【卒業生の進路(就職先)】

アメリカンファミリー生命保険／セントラル硝子／東海テレビ／東京電力／グリーンハウス／横浜銀行／カーメイト／日本貨物鉄道／佐川急便／会計検査院／草加市役所／横浜市役所

(過去2年度の卒業生の事例)



## 周藤ゼミの1年

	全体行事	2年生	3年生	4年生
4月	お花見	新ゼミ生合宿（2月）		
5月				
6月	ゼミコンパ			
7月	ゲスト講師招聘			
8月		夏合宿		
9月			夏合宿	卒論ゼミ合宿
10月			研究レポート提出	
11月	新ゼミ生選考			
12月	忘年会	研究計画書提出		卒論仮提出
1月			卒論計画書提出	卒論本提出
2月	卒論発表会	春合宿		
3月	卒業パーティー			卒業式

※上記は一例であり、年によって日程や内容が変更になる場合があります。



# ゼミ生よいひとこと

周藤ゼミへの応募を考えている年生に向けたメッセージを紹介します。（ ）内は、出身高校。

- 社会学という学問では私達が考えたことのないような観点から社会というものを見る事になります。戸惑う事もあるかもしれませんが物事に対して今までとは異なる考え方を持つようになる面白い学問です！（成城）



- 普段の活動はもちろんですが、年に2回の合宿がとても勉強になりとても楽しいですよ。（市立金沢）
- 社会学について学びたい人はぜひ！合宿では社会学を学びつつも現地の観光もできたりします。そしてゼミ生は個性豊かで仲も良いです。とてもやりがいがあるので興味があれば周藤ゼミへ！（熊谷）



- ゼミのメンバーはなかなか面白いユニークなやつが集まって面白いです。まともなやつだけが集まるゼミよりはこっちの方がむしろ楽しいんじゃないかと最近考え始めました（藤沢西）
- 社会学を学ぶことで、物事を新たな視点で見られるようになります。ゼミは和やかで、先生は博学な方です。（フェリス女学院）
- 社会学はやればやるほど驚きと楽しみを味わうことができます。そしてやればやるほど、

色々なものの見方ができるようになります！ゼミ生同士も仲が良いです。（成城）



- ゼミ生にはあっさりさっぱりした人が多い気がします。「社会」について何か思うことがある人はぜひ。（Bayfield High School）
- 社会学はその領域がとても広く、自分の関心がある現象を調べて深めていくことができます！「興味あるけど社会学よく分からないや……」という方もテキストの輪読から始めますのでご安心ください。（攻玉社）
- 社会学は、今までのものの見方とは違う目線で社会を観察し、研究していきます。そのような他の人とは違う視点を学びたいなと思っている人やまだ何を学びたいのか、決まっていない人はぜひこの周藤ゼミで社会学と一緒に勉強しましょう！（錦城）
- 社会学は身の回りの出来事を学問的に捉えるものです。日常を学問的に考えることはとても興味深いし面白いです！生活していて、不思議だな何でだろうと思うことがある人は、ぜひこのゼミで研究してみましょ！勉強するときは真面目に、遊ぶときは思い切り楽しむ！というメリハリのあるゼミです。皆さんのことをお待ちしております。（札幌南）



- 様々な分野の知識を活かして研究をしていく社会学は、様々な分野の講義を受講できる社会科学部にピッタリな学問です！社会学に少しでも興味を持ったらぜひ周藤ゼミへ！（鎌倉）
- 和やかな雰囲気の中で何に関しても詳しい先生が優しく教えてくれます！大学で学びたいことが見つからない人、社会学はそんな人にぴったりです！（町田）
- 基本的には真面目に社会学を学ぶゼミです。周りの人の頭の良さに驚くこともありますが、自分を伸ばす環境が整っています。一方、合宿等ではバーベキューなどもあり、とても楽しめます。勉強の面でも遊びの面でも大学生活を充実させること間違いありません！（開智）
- ゼミの時間はとても真面目です。先生は厳しくも優しく、その知識の多さにはとても驚かされます！フィールドワークも重視しており、合宿ではその時々の研究テーマに関連した場所に実際に赴くことが多いです。最初は社会学の入門テキストの輪読から始まるので、社会学をこれから学びたいと真剣に考えている人にはオススメのゼミですよ！（香蘭女学校）
- このゼミでは幅広いことについて学びます。そのため興味のなかった分野でも、気付いたら勉強しているので、自然にたくさんの知識がつくと思います！また、先生はなかなかユニークで熱い人です。そのため、一度授業を受けると、病みつき(?)になること間違いなし。一緒に楽しく社会学を勉強しましょう！（学習院）
- 普段気にすることは少ないけれども、誰もが確かに存在していると考えている「社会」。こ

の「社会」について私達が普段見ている場所と少し違った所から見てみませんか？担当教員の周藤先生は熱意のある先生で、ゼミでの指導にも力が入っています。少し違った学問をやってみたい、真剣に学問に取り組みたいなど色々な方が楽しめるゼミだと思います。（上海市立向明高等学校）

- 普段から見ている社会の光景を幅広い視点から捉えられるのがとても面白いなと思ってます！他の社会科学のように実学的側面は薄いかもしれませんが、自分の考えに幅が出来るので非常に楽しいです！！（城北埼玉）
- 社会学という学問は自分の身の回りの事象を取り扱うことが多いです。そのため、様々な学問の中でもとりわけ日常的問題に深くかかわっています。そのような問題についてみんなで分析し、議論することは自らを社会的に大きく成長させてくれます。どのような問題にもまじめに且つ熱心に取り組める人をお待ちしております。（浦和西）
- 普段とは異なる視点から考えるというのはなかなか大変ですが、やりごたえがあります。ゼミ生も個性的で知識が豊富な人が多いので、いい刺激になっています！社会学入門で興味を持ってたら、是非周藤ゼミへ！（高等学院）
- このゼミは、基礎的な文献講読をしたり、先輩方の発表を聞いたりして、社会学を基礎から学ぶことができるゼミです。一方合宿では、みんなでアニメを鑑賞して聖地巡礼を行うユニークなゼミでもあります。研究対象の多さが社会学の魅力の一つだと思うので、研究したいことが漠然としている人にもオススメのゼミです。（千葉）

## 応募の前に（ゼミナール！応募生向け）

社会学がどのような学問であるか、「社会学」の講義をとったことがない方は、応募の前に、次のムックや入門書などを参照して、だいたいの感じをつかんでおいてもらえるといいと思います。

- アエラムック『新版 社会学がわかる』朝日新聞社、2004年3月、1365円。
- 宇都宮京子 編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房、2006年10月、2520円。

（特に、第4章「メディアと情報化をめぐる社会学」（周藤担当章））

社会科学部学生読書室の「選定図書」の周藤のコーナーには、上記のほかにもいくつかの入門書や、ゼミナールでこれまでに講読したテキストを入れてもらっていますので、ぜひ活用してください。

---

## 周藤ゼミ「現代社会学研究」パンフレット 2017

発行日：2017年10月11日

発行所：早稲田大学 社会科学部 周藤真也研究室（〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1）